

2020年3月16日

抱負文 (取締役候補 山田浩司)

今般、積水ハウス株式会社(以下「当社」といいます。)の取締役候補にご指名いただいたことの意義と重みを感じております。以下、私がこの重責をお受けする心構えをお示ししたく存じます。

第1に、今般の株主提案で指摘するところの一つである当社のガバナンス不全の状況を目の当たりにし、私は海外事業の担当として、当社が国内外で魅力ある企業として成長し続けるために、ガバナンスの世界標準への移行に努めたく考えております。

昨今、ESG経営が注目されていますが、当社に限らず日本企業は広範に、「E(環境)」と「S(社会)」の分野には力を入れているのですが、一番重要な「G(ガバナンス)」の分野に力点が置かれず、軽視される傾向にあります。一方で、近時の投資家、特に海外の投資家は、投資対象としての評価において、透明性・信用性に裏付けされたガバナンスを重視しており、日本企業はポテンシャルが高いにも関わらず、海外企業と比較して透明性・信用性が劣るため、投資対象として魅力のないものになっています。

不正や私物化を許さず、積極的な事実に基づく情報開示を行う透明性の高い経営により、世界標準のガバナンスを確保し、世界市場で当社が投資対象として信用のある企業になることは、更には国内外のお客様を含めた全ステークホルダーにとっての当社に対する高い信用を得ることになると確信しております。

第2に、当社の更なる成長のためには、全社員が既存の主力事業の枠にとらわれない積極的で果敢な挑戦をする必要があり、これを実践することが「全ステークホルダーにとっての中長期的な企業価値の向上」につながると確信しております。

現在の一層激化した競争環境においては、事業の推進に当たり守勢は敗勢につながるのみであり、国内外問わず、リスクを見極めつつも、既存事業の枠にとらわれない時代に応じた積極的な事業展開が不可欠です。

当社には街作りまで行うハウスメーカーとして長年培った技術や信用といった決算等の数字に表れない強みが多数あります。この強みを時代や場所に適したアレンジをしながら、合理的なリスクコントロールの下で、積極的に事業展開を試みることができる分野が国内外問わず多数存在します。枝葉末節の議論に終始せず、取るべきリスクは覚悟して、合理的に市場が見出せる分野にその市場が潜在的に求めるものを適時に投入していきます。そしてその際には、「全ステークホルダーにとっての中長期的な企業価値の向上」を判断基準としつつ、あくまで中立的・合理的な観点から事業を見て判断する姿勢を確保したく考えております。

以上のような決意と姿勢で、この職務に臨み、当社の中長期的な企業価値の向上のために尽くす覚悟でございます。皆様のご理解とご支持を得られれば幸甚に存じます。

以上